

リユース部材を用いた接合部の耐力実験

岩田研究室 200402566 岡本 康司

研究概要

建築鋼構造において鋼材のリユースはリサイクルと比較して環境負荷削減に優れている。しかし、リユース材の構造性能を的確に評価することが求められている。

本研究では、鋼材の機械的性質の調査、リユース材を用いた引張試験および 1976 年に竣工された建物から得た損傷のある解体材を用いて実大実験を行う。

研究目的：リユース材の構造性能を評価する。

研究内容：



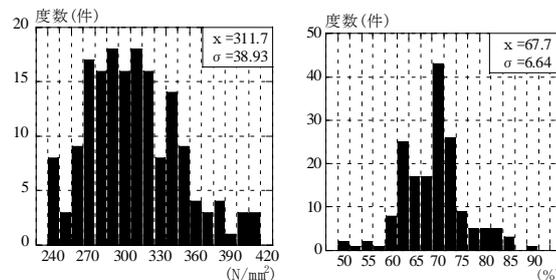
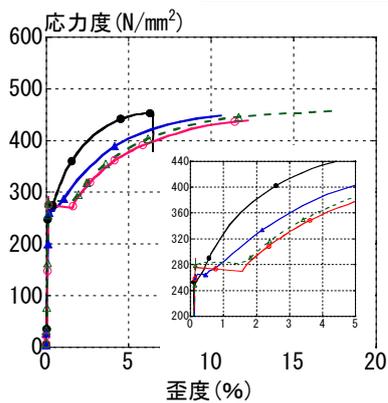
部材レベルでの
構造性能



矯正後、実大実験



素材レベルでの
構造性能



鋼材機械的性質データの調査

以上の項目より、リユース材の構造性能を評価した

研究成果：リユース材は、新材と同等の構造性能を持っている。

卒業研究を進めるにあたり困難が多々あったが、多くの方から助言を頂き、研究を最後まで終了できたことは大きな達成感があった。また、実大の大きさでの実験を行うことは最も理解しやすい形で建築を学ぶことであり、とてもよい経験になった。